



ロールプレイを通じて、対立や暴力の構造・対処法を実践的に学ぶ。このほかにも、若者の役割、民主主義、グローバル化といった、幅広いテーマを扱ったディスカッションも行われる

内戦が残した傷跡

2006年11月21日。ネパールの人々にとって、この日は特別な1日となった。政府と武装革命勢力のマオイスト（共産党毛沢東主義派）との間で続いていた11年間に及ぶ内戦に終止符が打たれ、ついに和平合意が締結されたのだ。内戦中には多くの家が破壊され、土地が強奪され、中には強制的に戦闘に駆り出された若者も少なくなかった。一般市民を含む約1万3000人が犠牲となり、10万人近くが故郷を追われた。



毎朝の日課として、ヨガに取り組む参加者

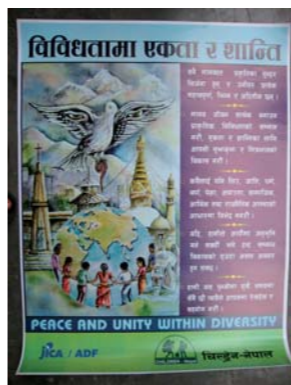
PLAYERS

国際協力の担い手たち

NPO法人懐かしい未来

平和への第一歩は身近な場所から

長年続いた内戦の影響で“暴力の文化”が広がったネパール。自らの心を見つめ直す平和教育プログラムが、若者たちの平和な明日を生み出す力を育てている。



若者たちが「平和」をテーマに描いた絵で作成したポスター

トレーニングの最後に、自分の中にあつた負の部分を書いた紙を集め、火をつけて燃やす参加者。2週間にわたり寝食を共にした若者たちの間には、平和の担い手としてのかけがえのない絆が生まれる

だからこそ、人々はこの日の知らせに安堵し、終戦を祝った。

だが一方で、内戦は彼らの心に消えることのない深い傷跡を残した。繰り返された襲撃、暴行、虐殺、破壊…。憎しみが憎しみを呼ぶ負の連鎖が、容易には消えない。暴力の文化として今も残り、社会全体を支配している。厳しい経済状況、貧富の差の拡大、混迷を深める政治などを背景とした、若者によるギャング活動やまん延するドラッグ、犯罪など、さまざまな社会不安が次々と噴出している。

市内から望むヒマラヤ山脈の山並みと、美しい湖が観光客に人気のネパール第二の都市、ポカラ。この街を拠点に、すさんだ社会の在り方に一石を投じようと、奮闘する人々がいる。平和教育プログラムの実践を通して若者の健全な精神の育成を図る、NPO法人「懐かしい未来」。09年よりJICAの草の根技術協力事業を通じ、スラムに住む少年たち、ストリートチルドレン、地域の青少年活動のリーダー、高校生や大学生など、さまざまなバックグラウンドを持つ10代後半の若者たち約20人をポカラ周辺の3つの郡から集め、現地のNGOと連携しながら平和教育プログラムを定期的に実施している。

「若者たちは、社会が思うように発展せず、むしろ暴力が広がっていることに深く傷つき、仕事もなく行き場を失っています」と話すのは、代表の鎌田陽司さん。「将来への絶望や怒り、不安、無気力感を乗り越え、望ましい社会を自ら生み出していくための力をつけてほしい」と、活動の目的を説明する。

平和教育の輪を広げる若者たち

「カーストが低くても、寺院での礼拝に参加する権利はある！」
「昔からのしきたりを守らないと、混乱するだけだ！」

参加者が、被差別者の処遇をめぐって言い争う住民に扮したロールプレイが行われていた。これは、日常によくあるいさかひの事例を通して対立や暴力の構造を認識し、仲介者としていかに効果的な解決策を見いだしていくかを体験するもの。彼らは、2週間のワークショップで、自己の認識と肯定、人生目標の設定、怒りやストレスのマネジメント、他者への共感など、自らの心を見つめ直す作業を通して多くを学ぶ。

「周囲へのねたみや怒りばかりだった自分が、他人の痛みや悲しみに共感すること、周りの言葉に耳を傾けることの大切さを学んだ」

「人前でも自分の非や間違いを認め、謝れるようになった」

プログラム終了後、こうした自らの変化や気付きを参加者たちは大いに喜ぶ。また、保護者や学校の教師などからも、彼らの態度やふるまいが変わったことへの驚きの声が寄せられているという。

研修に参加した若者は「ピースプロモーター（平和のつくり手）」と呼ばれ、学校や地域に戻り、「平和」をテーマとした授業やワークショップを行う。また、彼らが中心となり、自主的な青年グループが各地で結成され、平和のための啓発やそのためのニュースレターの発行といった、身近にできるさまざまな活動を展開。これに賛同した仲間の数は、400人近くに上る。また懐かしい未



プログラムで学んだことをもとに、「開発と平和」をテーマに高校で出張授業を行う



トレーニングを修了した教師やソーシャルワーカーたちと鎌田さん(中列左端)。現地のNGOと協力しながら作るカリキュラムは、回を重ねるごとに改良されている

来では、そんな若者たちの活動の広まりを後押しする、学校教師やソーシャルワーカーにも同様のプログラムを提供している。さらに、ワークショップのマニュアルやポスターといった平和教育ツールも作成している。

「平和は、自分たちの身近な場所から、身近な人とともにつくり出していくもの。力を合わせれば、誰もが社会を動かす可能性があるんです」と鎌田さん。

「学んだことを伝えたい」「起業したい」。以前はなかなか聞かれなかった夢を口にするようになった若者たち。その志の源となつているのは、何にも増して、本場の平和をつくり出す自らの力に気付いた喜びであるに違いない。